

文学と歴史

明治 又 正 昭和の日本近代文学の

傑作 一冊の 作品収録 9巻巻末に

広言をすかお忠ことわうだが 新聞、四巻、

にわらうている

能優の胡蝶は ませいよりきくやぶ楽だ

以前 音楽に傾き同いしうう広言をわあうた

それととつておいん水 存く有り 舞念に

思つている

これもおいん水 だがて有り 購入することだ

出する

それとさしておき 皆知つている

両口もすすす ちか何いおたてで 野うた

おまうた 夜あすす天 くもの森 谷と

話れの作であうかお知つている

しかし 全部おんおかと言くと おんてあいのち

9巻 野うた 花のれいしう 内容を知つている

お 同評のうすすも9巻 それらお話題に

たり耳の入りおんて4巻

名作のうたは その場面だつたり 素歌に

感動 できぬわだ

映画とその技術がわたり その中に感動あり

映画の天才は縁がまゝのこゝろ 心はのこる

よろしく思ふ

知るべきところ 映画をよこす

このころは 映像の力だ

今の若者たちはまたこれに走る 本有と ぶらり

その若者の心は にはたさる

人への感動を身へ行くのだ

日本が名作の伝説をいかに持つ すべてをいかに

思ふにた だんく であつたまに

私も今の若者と同じなのだ

涙も存分にゆく 映像のまゝがよい

このころは 写し出す 写し出す

流れるように行くのだらうわ

2021
1/19